

児童文化賞 (SJC賞) 受賞団体紹介

児童文化賞とは？

寒河江青年会議所設立時から50年間継続して行っている歴史ある賞です。きっと皆様のご両親の中にももらった人がいるかもしれません。

寒河江青年会議所 (Sagae Junior Chamber of Commerce) の頭文字と S…Science 科学・学問 J…Justice 正義善行 C…Culture 郷土の伝統、文化の継承

の頭文字をとり、名づけられました。寒河江青年会議所ではこの児童文化賞 (SJC賞) という褒章を地域貢献に携わった児童・生徒を対象に創立以来、毎年差し上げております。

大江町立左沢小学校

理事長賞 その他の部門

学校と地域がともに歩む学校を目指す 地域貢献活動

本校で、本年度特に力を入れているのが「地域貢献活動」です。これまで学校は、読み語りや郷土学習等、地域の皆様の力を借りて教育活動を推進してきた反面学校が地域の皆様に喜んでいただいたり、役に立つ活動は活発ではありませんでした。

そこで、学校と地域の双方がおたがいに喜び合い、地域とともに歩む学校をめざしたいと考えました。この活動によって、いっそう地域のことを知り、地域を愛する子どもに育ててほしいと思っています。具体的な活動は、次のとおりです。

3年生：最上川舟唄継承活動

4年生：緑の少年団活動

5年生：栽培した米を販売し、その売上金を宮城県
亘理町におくる被災地支援活動

6年生：重要文化的景観の町「大江」の広報活動

全校生：交通安全啓発活動



山形県立左沢高等学校

奨励賞 善行ボランティア部門

東日本大震災復興ボランティア事業【花植え活動】



(1) 実施日 平成28年6月8日(水) 12:30~14:20 → 現2年次生 ※昨年度実施
平成29年6月7日(水) 12:30~14:20 → 1年次生

(2) 活動場所 宮城県亘理郡山元町「山元夢ファーム」

(3) 参加人数 平成28年度 生徒102名 引率教員6名
平成29年度 生徒95名 引率教員6名

(4) 花苗づくり 種類は、マリーゴールド、サルビア、ニチニチソウの3種類で、農業体験学習の授業を使い、ポット上げを行った。

【1000ポットを2年間、計2000ポット】

(5) 移動 (1)の実施日に、大型バス3台で現地に向かった。草花苗は、バスのトランクに入れ、現地に運んだ。

(6) 取り組みの様子 NPO団体「ひのきしん山元」より、現地にて指導を受け、持ち込んだ花苗(2年間で2000ポット)を植え付けた。

(7) 学んだこと 災害地域での復興支援活動を通して、被災地とそこで暮らす皆さんの現状を知り、さらに、自らが社会に貢献する大切さを学んだ。

西川町立西川中学校

奨励賞 善行ボランティア部門

宮城県への清掃、合唱を通じたボランティア活動

西川中学校第2学年では、学年行事として仙台研修を実施しています。

仙台の町づくり応援団の方々と仙台市内の企業を訪問し、職業について学習し、さらには「中学生の私たちにできること」として、東日本大震災の被害を受けた宮城県内でのボランティアを、5年前から継続して行っています。

今年度は、塩竈市役所や桂島の区長さん方の協力を得て、桂島の浜清掃を行いました。

流木やプラスチックなどの除去を学年全員で行いました。また、「歌声の響く学校」を目指した取り組みの一環として、仮設住宅や避難所・特別老人ホームにいる方々に合唱を披露しました。今後とも、学校・学年として人の役に立てる活動を行っていきます。



児童文化賞 (S J C賞) 受賞団体紹介

児童文化賞とは？

寒河江青年会議所設立時から50年間継続して行っている歴史ある賞です。きっと皆様のご両親の中にももらった人がいるかもしれません。

寒河江青年会議所 (Sagae Junior Chamber of Commerce) の頭文字と S…Science 科学・学問 J…Justice 正義善行 C…Culture 郷土の伝統、文化の継承

の頭文字をとり、名づけられました。寒河江青年会議所ではこの児童文化賞 (S J C賞) という褒章を地域貢献に携わった児童・生徒を対象に創立以来、毎年差し上げております。

大江町立大江中学校生徒会

奨励賞 善行ボランティア部門

地域交流や清掃活動を通じ自尊感情を育み、生徒集団の自治能力を高める

1 活動のねらい

(1) 高齢者との交流や清掃活動を通して自尊感情を育ませていただきながら、共に生きる社会づくりについて考える。

(2) 生徒会役員を中心に企画・運営を行うことで、生徒集団の自治能力を高める。

2 活動の内容

生徒会活動の一環として町内の施設に訪問し、ボランティア活動や合唱披露をさせていただいております。各学年の自治会が主体となり、活動内容を決めて準備をおこなっています。介護施設は、車いす寄贈先にもなっている施設であり、継続したつながりを持つことができます。これらの活動を通して、高齢者とのかわり方を学んだり、他者に共感でき、相手の立場になって考えられる姿勢を学んだりすることができます。また、合唱を聞いていただいたときに涙する方々もおり、ボランティア活動や合唱の充実感や達成感を感じる機会にもなっています。夏休み中の福祉施設「らふるんす大江 夏まつり」のボランティアには、多数の希望者があり、福祉施設訪問ボランティアの経験が活かされています。その他にも、地域ボランティアの募集があれば、生徒会が告知をしています。毎回、定員以上の参加人数が集まり、その他にも生徒会が主体となり、様々なボランティア活動を推進し、福祉に対する理解を深めたり、地域に関わる・広がる・つながる喜びを感じたりすることにつながっています。このように地域の方々と一緒に活動を行うことで、さらに深い交流へと発展しています。



朝日町立朝日中学校

奨励賞 善行ボランティア部門

アルミ缶を回収し、町内の福祉施設へ車いすを寄贈する生徒会活動



それまで、校内だけで行われていたアルミ缶回収の生徒会活動を、平成26年度より町民全員に協力を願ひ、「町内一斉アルミ缶回収」と題して行うこととした。町内の区長さんに依頼して、公民館の軒先をお借りし、町民のみなさんから公民館にアルミ缶を集めていただけるようにした。回収日に生徒が公民館にアルミ缶を回収に行き、学校へ集めることとした。平成26、27年度は年に2回収日を設定して行ったところ、年々回収量が増え、毎年車いすを町内の福祉施設へ寄贈することができている。平成28年度からは年3回の回収日を設定した。町内福祉施設3施設へ合計5台の車いすを寄贈することができ、広く町民の方々からも活動に対して理解と協力をいただけるようになった。

町内のある福祉施設では、利用者の方が、自分達のアルミ缶をすすいでつぶし活動に協力してくれるようになった。また、回収量も増えたことで、生徒達も保護者の方と協力して運搬作業を行ったりと、生徒のみならず、町民、保護者、福祉施設の利用者とたくさんの方々の連携をつくりだしている。

朝日中学校生徒会の活動が起点となりながら、より多くの方々のボランティア精神に火をつけることに貢献しつつ、「自分たちにも人のためにできることがある」と、実感を持った活動になっていることから、推薦に値すると考える。

河北町立北谷地小学校

奨励賞 善行ボランティア部門

子供達へ「地域の環境美化意識の醸成」と「郷土愛」を啓発する清掃活動

本校のボランティア委員会が発案し、活動の主体となり、全校児童と北谷地地区青少年育成町民会議の皆さんのご協力のもと、通学路付近の清掃活動を行っています。

昨年度は、10月11日に実施し、地区の方10名が参加してくださいました。この活動は、数年間継続して行われており、子どもたちに「地域の環境美化意識の醸成」と「郷土愛」を啓発するのに役立っています。

また、子どもたちと先生方だけではなく、地域の方々と一緒に活動することで地域と子どもたち、地域と学校の絆をより一層強くする活動となっています。

将来的に次世代の北谷地地区を背負って立つ子どもたちの育成には欠かせない活動です。活動に価値付けし、子どもたちの自信にするために、児童文化賞に推薦いたします。



児童文化賞 (S J C賞) 受賞団体紹介

児童文化賞とは？

寒河江青年会議所設立時から50年間継続して行っている歴史ある賞です。きっと皆様のご両親の中にももらった人がいるかもしれません。

寒河江青年会議所 (Sagae Junior Chamber of Commerce) の頭文字とS…Science 科学・学問 J…Justice 正義善行 C…Culture 郷土の伝統、文化の継承

の頭文字をとり、名づけられました。寒河江青年会議所ではこの児童文化賞 (S J C賞) という褒章を地域貢献に携わった児童・生徒を対象に創立以来、毎年差し上げております。

寒河江市立陵東中学校 2 学年

奨励賞 善行ボランティア部門

市内の老人ホーム等の施設訪問し交流や、清掃、合唱などの奉仕活動

ボランティア精神を育むことを目的に学年行事の一つとして、年に数回、クラスごとにそれぞれ市

内の老人ホーム等の施設訪問を実施している。実際の活動としては、入居者との触れ合いや交流を目

的とした、生徒による本の読み聞かせやカルタやトランプなどのゲーム、さらに奉仕活動として、ガ

ラス拭きやくもの巣取り、施設内外の清掃活動などを行っている。

特に、活動の最後にはクラスの合唱を数曲披露し、施設を利用している方はもちろん施設の職員の方

々からも好評を得ている。



栄光スポーツ少年団

奨励賞 善行ボランティア部門

剣道を通じ青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和39年設立

当団体は、剣道を通じて青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和39年に立ち上げられた団体です。その活動の一環で、

(1) 地域における継続的な奉仕活動や、(2) 日本文化の発信活動を行っています。

1つ目は、毎年10月に西川町民体育館で開催される月山杯争奪剣道大会の運営補助です。本大会は中学生を対象にし、県内外から選手500名、役員・審判・保護者などを含めると1,000名にもものぼる西川町内でも最も大きな大会となっています。団員はこの大会の中で、運営の中心となる試合場係を担当し、正確かつ遅滞のない大会運営に貢献しています。

2つ目は、毎年1月頃に開催される国際交流会における武道「剣道」の発信活動です。台湾師範大学は西川町と提携を結んでおり、毎年約60人が来町し、5日間ほど滞在します。団員はこの滞在プログラムの1つである町民との交流会の中で、日本剣道形などを披露し、日本文化の発信、ひいては、日本文化の理解促進に貢献しています。



児童文化賞 (S J C賞) 受賞団体紹介

児童文化賞とは？

寒河江青年会議所設立時から50年間継続して行っている歴史ある賞です。きっと皆様のご両親の中にももらった人がいるかもしれません。

寒河江青年会議所 (Sagae Junior Chamber of Commerce) の頭文字と S…Science 科学・学問 J…Justice 正義善行 C…Culture 郷土の伝統、文化の継承

の頭文字をとり、名づけられました。寒河江青年会議所ではこの児童文化賞 (S J C賞) という褒章を地域貢献に携わった児童・生徒を対象に創立以来、毎年差し上げております。

河北町立谷地中部小豆奴

優秀賞 文化芸能部門

地域に愛され、旧き良き伝統を大切に守り続ける中部小豆奴

中部小豆奴は、昭和55年学芸会で当時の3年生が演じた「谷地に奴(やっこ)がやって来た」が始まりです。谷地八幡神社境内での谷地祭りを再演した奴振(やっこふ)りの出し物でした。あまりの見事さに「学芸会だけで終わるのはもったいない」との話が持ちあがり、谷地八幡宮への奉納へとつながりました。

その後、保護者のみならず、地区の方々からも、存続の要望が出され、指導者の確保、練習方法などの問題をクリアしながら、36年目を迎えています。

その間、谷地八幡宮の祭典、眺葉園・グループホーム河北への慰問などの定期的な活動の他に、国民体育大会、ねんりんピック、招待を受けての県外での公演などを重ねました。

地域に愛され、旧き良き伝統を大切に守り続ける中部小豆奴を推薦いたします。



西川町立西川小学校第6学年

優秀賞 善行ボランティア部門

西川町の観光大使

第6学年児童51名は、9月上旬の修学旅行において、自分たちのふるさと「西川町」の素晴らしさを旅行先で出会った多くの人々にPRしたいという強い願いを持ち、「西川町の観光大使になろう」というテーマを掲げた。そして、前学年までに学習した内容のほか、総合的な学習の時間を中心に西川町の魅力を調べたり、今年度スタートした「ふるさと楽行」で岩根沢地区の歴史や文化の素晴らしさを体験を通して学んだりしたことをパンフレットにまとめることにした。

パンフレットを作るにあたっては、自分が伝えたい内容にこだわりを持ち紙面構成を考えたほか、児童同士で情報交換や意見交換を繰り返した。そのような中、より魅力あるパンフレットにしたいという願いや悩みから、町商工観光課職員よりアドバイスをいただく時間を設定することにした。そこで学んだ「相手を意識した記事」や「西川町をイメージする明るい色使い」の視点から工夫を加え、児童一人一人が個々に「世界でたった1枚のパンフレット」を完成させた。さらに、実際に説明しながら配付する場面を想定し、どんな言葉を遣って、どんな態度で配付すれば西川町の魅力をしっかりと伝えられるかを考え、児童同士のみならず町商工観光課職員からもアドバイスをいただきながら説明の仕方を学んだ。このような取り組みの価値が町観光協会からも認められ、第6学年児童51名が「西川町子ども観光大使」に任命された。合わせて、その様子が町報で町民にも周知され、町の活性化につながった。



寒河江市立幸生小学校

審査員長賞 文化芸能部門

「幸生大黒舞」「葉山太鼓」伝統芸能の継承を目的とした郷土クラブ

幸生小では、入学したての1年生から6年生までの全児童が、4月早々に「幸生大黒舞」と、「葉山太鼓」の2つの伝統芸能の継承を目的とした「郷土クラブ」に取り組みます。今年は、6月に山形市で行われた日本一さくらんぼ祭りで、広く山形県民の方々に幸生大黒舞を披露しました。また、毎年、寒河江まつりで披露するとともに、「特老しらいわ」に出かけ、おじいちゃん・おばあちゃん方との交流を行っています。その内容や特徴は、次の通りです。

- 1 およそ週1回「郷土芸能クラブ」があり、上級生が下級生に指導しながら取り組んでいます。
- 2 幸生大黒舞は、江戸時代幸生銅山で生まれた幸生独特の大黒舞なので、地域の指導者3名の助言を年間数回受けながら、伝統の継承に努めています。上級生になるに従って、より正確に・より美しく踊りたいという想いが高まり、踊りを身に付けていくことで、故郷への誇りにつながっています。
- 3 葉山太鼓は地域の伝統行事「病んまい送り」のリズムから30年ほど前に生まれた太鼓です。寒河江祭りや学習発表会で、地域や寒河江市の皆さんに見ていただくことを励みに、上級生をリーダーとして練習に取り組んでいます。
- 4 地域の方々から、葉山太鼓も地域の伝統にしたいとの声があがり、年1回、児童が保護者や地域の人にも伝える練習会を行っています。

